

平成25年度
視察等の届出・報告書
(届出番号 10~12)

平成25年度 視察等の届出・報告書 (10~12)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
10	8月28日 ~29日	岩本壯八	妹尾智之	東京都立川市（「こころの健康セミナー~うつ病とこころのケア~」受講）



平成 25 年 8 月 20 日

真庭市議会

議長 長尾 修 殿

真庭市議会議員 岩本 壮八



調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先

立川市女性総合センター・AIM

東京都立川市曙町2-36-2 TEL 042-528-6801

3 内 容

こころの健康セミナー うつ病とこころのケア

～こころのエンジンとタイヤの人生

4 行 程

別紙のとおり

8/28-29

5 事務局から訪問先への依頼

必要

不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

公明党真庭市議団 視察参加名簿

岩 本 壮 八

妹 尾 智 之

以上 2 名の参加です

公明党真庭市議団 視察日程表

期 日	行 程
8月28日(水)	<p>真庭市 → 落合IC = (中国自動車道～岡山道) = 賀陽IC → 岡山空港 >>> 羽田空港</p> <p>9:30 11:55 13:15</p> <p>→ 立川市女性総合センター・アイム → 新宿プリンスホテル(宿泊)</p> <p>19:00 21:00</p>
8月29日(木)	<p>新宿プリンスホテル → 新宿駅 → 羽田空港 >>> 岡山空港 → 賀陽IC = (岡山道～中国自動車道) =</p> <p>9:00 15:00 16:15</p> <p>落合IC → 真庭市</p> <p>18:00</p>

【 視察先 】

立川市女性総合センター・アイム 東京都立川市曙町2-36-2 TEL 042-528-6801

【 宿 泊 】

新宿プリンスホテル 新宿区歌舞伎町1-30-1 TEL 03-3205-1111

議長 副議長 局長 GL 係 回覧



副議長

局長

GL

係

回覧



報告書



平成25年9月26日

報告者 議員氏名 岩本 壯八
妹尾 智之



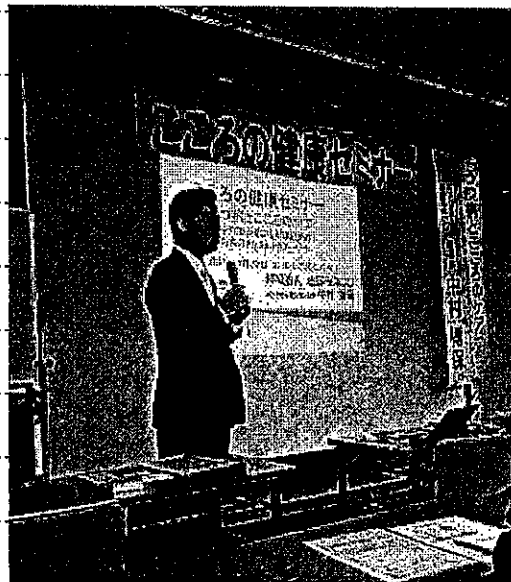
下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究 ・ **研修会** ・ 先進地調査 を
しましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	自 平成25年8月28日 (午前・午後) 9時30分 至 平成25年8月29日 (午前・午後) 18時00分
2	場 所	東京都立川市曙町2-36-2 立川市女性総合センター「アイム」
3	用 件	「こころの健康セミナー」～うつ病とこころのケア～への参加
4	概 要	<p><講師プロフィール></p> <p>NPO法人・きぼうのにじ 理事長 中村博保氏</p> <p>メンタル心理カウンセラー (JADP認定)、病院経営医事監修コンサルタント 全国精神科専門 (うつ病) 認定看護師地域支援プロジェクトチーム統括マネー ジャー。20年以上にわたり、医療法人北林会、(株)ニチイ学館で医療事務及び人 事・労務管理や自治体病院などの業務・経営改善に携わる。現在は、精神科医や 神経科認定看護師らと「うつ・自殺対策プロジェクト」として、全国的な活動を</p>

報告書 (継紙)

行っている。

< 講演の概要 >



講演中の中村博保氏

・「うつ」とはどんな病気か？うつと不安障害とは違う。不安障害は毎日の生活の中で不安を感じる思うことであり、うつは不安になることが病気ではなく、元には戻らない。

・「うつ」とはどんな病気か？うつと不安障害とは違う。DSMという診断基準がある。

・うつ病になると眠れない。上手な睡眠のコツは、自分にあった睡眠時間であること、眠るときはリラックスすること、飲酒は睡眠の質を悪くする、

眠ろうと意気込まない、

自然に眠くなってからでよい。

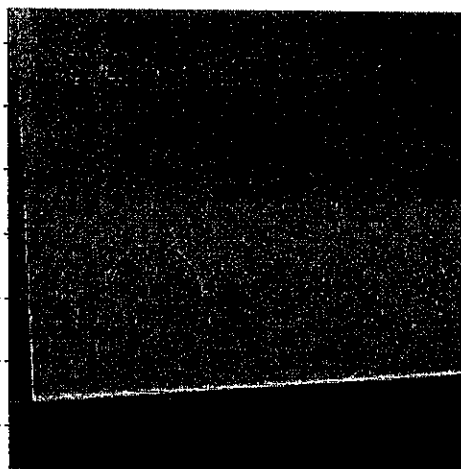
・自殺の8割はうつ。60歳以降の人の自殺が増えている。これは、リタイヤに伴う喪失感、近親者の死、社会的役割の喪失、健康の喪失などが原因。

・うつと間違われやすい認知症との類似点は共に活力が無くなる。いずれも早く見つけ予防することが大事となる。

・治療方法は精神療法（認知行動）、環境を整える（休養）、薬物療法（抗うつ剤）があるが、一般的に用いられるのが薬物療法。この薬物療法には問題点がある。医師から患者に処方されても①飲まないから良くならない②良くならないから新たな処方する③飲まないから効かない④効かないから言わない、の悪循環に陥り重症化する。

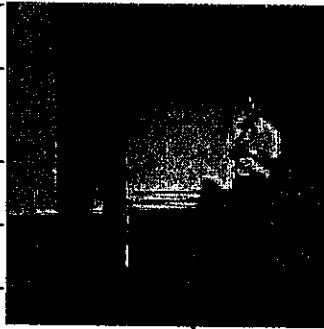
・一生のうち15人に1人がうつ病にかかり、再発率は50～60%と高い。再発を防止するには、

①発症のサインを見逃さない②酒に逃げない③運動をする④周りの人の支援が必要⑤認知行動療法で思考を修正する（ストレスを感じなくなる）ことが大事。



報告書 (継紙)

- ・周囲の人は、こころのスキルアップをさせてあげることが大事①話を聞いてあげよう (聴く)。人は話すことで自分の心を解放できる②承認してあげよう。ほめる、あいさつ、声かけ、気持ちを伝えてスキルを身につけさせる。「良かった探し」マイナスをプラスではない、決めつけない。
- ・こころの健康をチェックするため、パソコンや携帯電話からアクセスできる「心の体温計」のサイトがある。本人はもとより、家族も心の健康が簡易にできる。
- ・客観的に捉える“こころのものさし”として、心臓にUSB位の機器を3分間充てることにより早期発見できる「心拍変動リアルタイム解析プログラム」がある。



・タイヤの人生。前輪は楽しみであり、居場所であり、その人の役割である。後輪は、その人を支える体力であり、生き甲斐であり、病ないことである。このタイヤを動かすのが「こころのエンジン」である。いのちの使い方、生き方が大事である。

・うつ病は、女性が罹りやすいが、自殺は男性が走りやすい。

比較的視点が過去を追い続ける人はうつに移行しやすい。

公明党真庭市議団 視察日程表

期 日	行 程
8月28日(水)	真庭市 → 落合IC = (中国自動車道～岡山道) = 賀陽IC → 岡山空港 >>> 羽田空港 9:30 11:55 13:15 → 立川市女性総合センター・アイム → 新宿プリンスホテル(宿泊) 19:00 21:00
8月29日(木)	新宿プリンスホテル → 新宿駅 → 羽田空港 >>> 岡山空港 → 賀陽IC = (岡山道～中国自動車道) = 9:00 15:00 16:15 落合IC → 真庭市 18:00

【 視察先 】

立川市女性総合センター・アイム 東京都立川市曙町2-36-2 TEL 042-528-6801

【 宿 泊 】

新宿プリンスホテル 新宿区歌舞伎町1-30-1 TEL 03-3205-1111

平成 25 年度 視察等の届出・報告書 (10~12)


届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
11	9月18日	竹原茂三		大阪市（新阪急ホテル・試食商談会「真庭の食材・特産品」）・高槻市（真庭市場）



様式第1号

平成 25年 8月 19日

真庭市議会
議長 長尾 修 殿

真庭市議会議員 竹原 茂三 

調査研究 研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先

・新阪急ホテル

・真庭市場

3 内 容

・「真庭の食材・特産品」試食商談会視察

・新「真庭市場」の現況視察

4 行 程

別紙のとおり

5 事務局から訪問先への依頼

必要

不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

試食商談会【真庭の食材・特産品】のご案内

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、私ども「岡山県真庭市」の自慢の食産品の数々をご紹介するため、試食商談会【真庭の食材・特産品】を、下記により開催いたします。会場では、蒜山高原など地元真庭のグルメ食材を使用したお料理をご飲食いただけるほか、生産者がブース出展しております。自然豊かな産地の様子を知っていただき、栽培方法やこだわりポイント、お勧めの調理法など、直接お話しいただける機会となっております。

ご多用中とは存じますが、岡山の自然豊かな山あいの地域・真庭からの自慢の産直食材を特別にご賞味いただきたく、ぜひお誘いあわせの上ご来場を賜りますようお願い申し上げます。

敬白

真庭市地域雇用創造協議会・真庭市

●日時 平成25年9月18日(水) 11:00~14:00 (10:45受付開始)

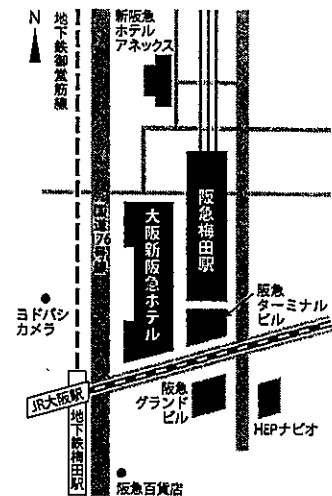
※上記時間内で、ご都合に合わせてご来場いただきますようお願い申し上げます。

●場所 大阪新阪急ホテル
2階宴会場「月の間」

〒530-8310 大阪市北区芝田1-1-35
TEL:06-6372-5101 (代表)

- 内容
- ・生産者による食材展示
 - ・出展企業の食材を使用したホテルのシェフによる料理の試食

●主催 真庭市地域雇用創造協議会・真庭市



【真庭市地域雇用創造協議会】

国や市からの委託を受け、地域の雇用創出・雇用情勢の改善をめざし、様々なセミナーの開催や、就職支援、PR事業などを実施しています。

I N V I T A T I O N

試食商談会【真庭の食材・特産品】出展ブース

ひるぜんらくのうぎょうきょうどうくみあい

真庭酪農農業協同組合 (乳製品・ジャージー牛肉)

本場英国のジャージー島のジャージー牛乳は「ロイヤルミルク」と讃えられ、英国王室の御用達！希少価値の高いジャージー牛を真庭地域で飼育し、頭数は日本一、安全でおいしい牛乳・乳製品・牛肉製品を提供しています。生乳は淡い金色を帯びており、保存料安定剤不使用。最近ではヘルシーなジャージー牛肉も人気があります。

〒717-0501 真庭市真山中福田958

電話：0867-66-3645

http://www.hiruraku.com

ひるぜんワイン 有限会社 (真庭の山ぶどう製品)

真庭高原で古くから行われてきた山ぶどうの栽培を生かし、西日本では珍しい山ぶどうを贅沢に使用したワイン、ジャム、ジュースを製造販売しています。真庭産の山ぶどうは本場とされる東北地方のものより甘みが強い特徴があり、ポリフェノールは通常の8倍！野性味をしっかりと残しながらも上品な味わいが楽しめます。

〒717-0602 真庭市真山上福田1205-32

電話：0867-66-4424

http://www.hiruzenwine.com

おちしやぞうじょう

株式会社 落酒造場 (日本酒)

1893年創業。周りの山は石灰岩で、ミネラル分を多く含む中硬水を使用し、岡山産「朝日米」にこだわった純米酒造りを行っています。ホタルの里・北房地域にて、恵まれた水を活かした手作り伝来の技と味にこだわった真庭のお酒は、やさしい果実香とすっきりとした口当たりでフレッシュさと旨みが口の中に広がります。

〒716-1433 真庭市下皆部664-4

電話：0866-52-2311

http://www.blogs.yahoo.co.jp/tisnr26ochi

にしむじ

西藤ドライフラワー (古代米・餅)

中国山地の山村、美しい川が流れる山あいの美甘地域にて、黒米や赤米の古代米や餅米品種「ヒメノモチ」を栽培し、古代米やヒメノモチでつくるお餅を加工品として製造販売しています。縁起のよい古代米を使った稲穂のドライフラワーは、鑑賞用として通年を通してお楽しみいただけます。

〒717-0105 真庭市美甘3526

電話：0867-56-2067

つじほんてん

株式会社 辻本店 (蔵元の醤油麹)

1804年創業。三浦藩御用達の献上酒として「御膳酒」の銘を受け、親しまれている岡山の造り酒屋・御前酒蔵元。すっきりとした辛口で、岡山県初の女性社氏が酒造りを行っています。「9(NINE)シリーズ」など、若い蔵人を中心に新しい取り組みを行い、酒蔵レストラン「西蔵」では、「しょうゆ麹」などの蔵元食品も開発。

〒717-0013 真庭市勝山116

電話：0867-44-3155

http://www.gozenshu.co.jp

こうのすみせいぞうじょう

有限会社 河野酢味噌製造工場 (味噌・酢)

明治創業。おいしくて体に優しいもの造りを目指し、国内産原料・天然醸造にこだわっています。自然に育った良い素材と昔ながらの手造り製法で手間暇かけて造る味噌や酢は、まろやかな味とコクがあり地元の人に愛され続けるロングセラー商品。その他、塩麹・醤油・焼肉のタレなども人気です。

〒719-3201 真庭市久世267

電話：0867-42-0102

http://www.kohno-honten.co.jp

さかい ぎょうしやせいざんくみあい

境、行者生産組合 (行者にんにく)

健康思考が高まるなか、今話題の幻の山菜「行者にんにく」の健康効果はにんにくの約4倍！食の安心安全を第一に、完熟堆肥を使って栽培し、農薬や化学肥料は使用していません。旬は3月～4月で、醤油漬けや冷凍保存でもおいしくいただけます。他に、ホースラディッシュ (山わさび) も栽培。

〒716-1431 真庭市阿口境1328

電話：090-3636-0102

まにわいちば

真庭市場 (産直の旬野菜)

2012年8月に高槻市にオープンした真庭市の農畜産物直売所「真庭市場」。毎朝真庭から届けられる採れたて野菜や果物、こだわりの栽培作物や珍しい農産物、真庭ジャージー乳製品など真庭自慢の加工特産品を多数取り揃えております。「真庭の旬」をぜひご賞味ください！

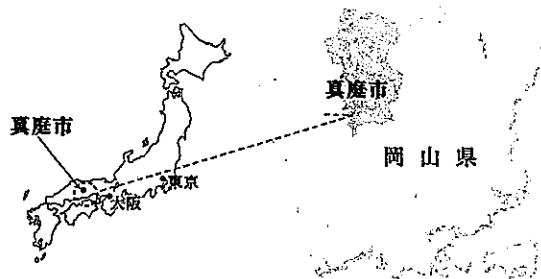
〒569-0803 高槻市高槻町14-30

電話：072-668-7735

まにわ

※真庭市紹介

岡山県真庭市……大阪から西へ車で2時間半。岡山県北部に位置し、北は鳥取県と隣接。北部の高原から南部の盆地まで、南北50kmの広大な市は、「真庭高原」や「湯原温泉」、ホタルの里「北房」など自然豊かな観光地としても有名です。南北に流れる美しい旭川に豊富な森林資源、肥沃な大地と豊かな自然に恵まれた広大な山あいの地域。そんな真庭の水と緑、そして人が育んだ自慢の食材・特産品をご紹介します。

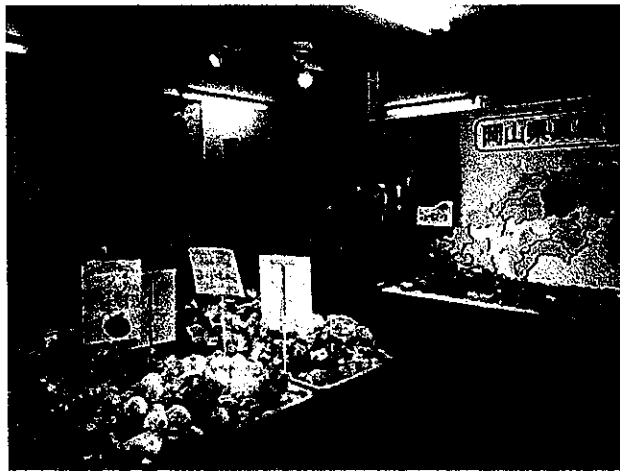


9月18日

高槻市の「真庭市場」と
大阪新阪急ホテルでの試食商談会

竹原茂三

9月18日 高槻「真庭市場」

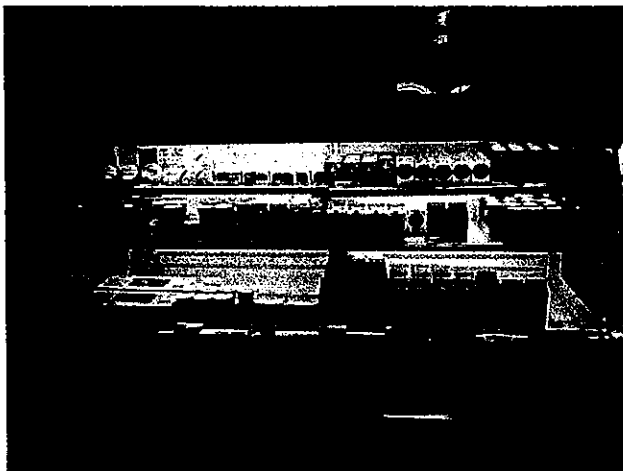


お客が切れ目なく常時20名ぐらい来店している。

話を聞いてみると、前店のお客は勿論新規のお客もよく立ち寄っているようである。ニューピオーネ、瀬戸ジャイアンツは勿論ミヨウガ・枝豆・ナス等もよく売れているようであった。

通路は十分な広さで会ったが野菜の陳列棚にもう一工夫できないものか。

平面に陳列でなく段々にすればより多く陳列でき沢山に見えるのではないか。



「真庭の食材・特産品」 試食商談会



初めての試みの様であるが、次々とお客様が来られており出展者と懇談がなされているようであった。

初めての試みとしては成功したと言える。このうち何件でも商談に結び付けば万々歳であるが結果は聞いていない。

ただ何点か注文をつけさせていただくならば、来客者のアンケートが出来なかったのかな？職員さんが、直接来客者にアンケートが出来なかったものかと？

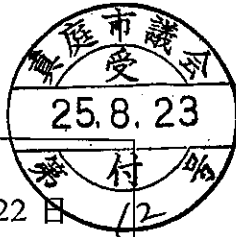
そうすることが次回に繋がっていくのではないかな。

この企画を実施した商業観光課に敬服する。



平成25年度 視察等の届出・報告書 (10~12)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
12	9月26日 ~28日	古南源二	池田文治・原秀樹	高知県大豊町（第7回全国水源の里シンポジウム）・徳島県神山町（移住者の受入体制）



様式第1号

平成 25年 8月 22日

真庭市議会
議長 長尾 修 殿

真庭市議会議員 古南 源二 

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先

高知県大豊町

徳島県神山町

3 内 容

全国水源の里シンポジウム参加の為
移住者の受け入れ態勢とその状況視察

4 行 程

別紙1のとおり

9/26~28

5 事務局から訪問先への依頼

必要

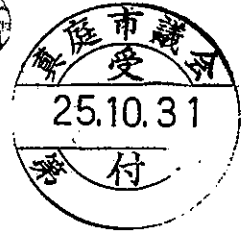
不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

別紙 1

第7回全国水源の里シンポジウム大豊町「参加計画案」						
計画	9月26日(水)~27日(金)~28日(土)					大豊町役場 TEL-0887-72-0450
9月26日(木)	出発9:00	車移動	大豊町着11:30	昼食	シンポジウム 13:00~17:00	送迎バス 高知市内宿泊 車は会場に駐車します。
9月27日(金)	9:00~12:00	分科会	高知おおとよ製材所と山村集落見学		昼食は大豊パークに戻ります。	
	大豊町発12:30		神山町視察15:30~17:00 NPO法人案内でサテライトガイド		NPO推薦場所に宿泊します。	
9月28日(土)	ホテル発9:00	9:30~	アートガイド&NPO法人理事長の事業説明		~12:00	帰着17:00
参加者	池田文治 原 秀樹 古南源二 以上3名					


議長 副議長 局長 GL 係 回 覧



様式第2号

報 告 書

平成 25年 10月 31日

報告者 真庭市議会議員 氏名 古南 源二 

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究、研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	自 平成25年 9月26日 (午前・午後) 9時00分 至 平成25年 9月28日 (午前・午後) 5時00分
2	場 所	高知県大豊町 ----- 徳島県神山町 ----- -----
3	用 件	第7回全国水源の里シンポジウム参加の為 ----- 移住者の受け入れ態勢とその状況視察 -----
4	概 要	----- 詳細は別紙による。 ----- -----

第7回全国水源の 里シンポジウム 報告書



上流は下流を思い、下流は上流に感謝する精神を育て、里山の資源循環、森林再生が現代の生活に欠かせない事を認識しよう。

水源の里シンポジウム報告書

場所: 高知県大豊町

日時: 平成 25 年 9 月 26 日 午後 1 時から 27 日 午後 0 時まで

内容

大豊町の高原で開かれたシンポジウム。

私は、強風と冷えで体調を崩し、ほとんどの内容は聞き取れずに終了。

来賓祝辞は、総務省自治行政局過疎対策室長 山越信子氏は地域の活性化、自立の促進を応援している。過疎地域の住民の福祉の向上のみならず国土の保全、水源の涵養、地球温暖化の対策、等国民全体の安全安心の生活を支える広域的な機能を有することに着目し、水源の里の活動を開催されており感謝する。地域課題を地域で解消しようとする動きに期待し、応援していく。

山口祥義氏は、旅行業界から見た“水源の里”と題して、限界集落と言われる地方からの発信が大事である。

小田切教授は、「日本に“水源の里”はいらないのか」限界集落という言葉が使われなくなってきた。かつて経済が良かった時代は地方に温かかった、経済の発展とともに中山間地域の人たちが中心部に出てきて生活するようになり地方に冷たくなって来た。

50～60 代の男性には田舎志向があるが女性にはコミュニティ志向が強い。従って主人について田舎に行こうとは思わないのである。若者にも農村志向はある。地域協力隊は都会の暮らしにうんざりして地方に来るのは 3% に過ぎない。ほとんどは指向性を持ってきている。農山村は食料、エネルギー、水の 3 点のグローバルマネーの拠点である、云々。昨年と同じ内容の講演でした。

パネルディスカッションは人選に味があった。

大豊製材所社長中島浩一郎氏は、森林資源を有効に活用して行かなければならない。循環型社会の構築を目指し、木質バイオマス発電所を建設している。CLT という構造材を国も認めるべきである。等森林資源にかける思いを話した。

林業家の小笠原徳孝氏は、地元で林業をしているが、最近若者が仕事の習得にやってきた。昔は就業体制が天候任せのところがあったが現代の若者に合わせ休日なども一般に合わせるようになった。後継者がいなければ、森林の保全活動、環境保全は進まないと話した。

開催会場になった「ユトリストおおとよ」マネージャー西村直子氏は、海外生活を行かして、地元の害獣の猪・鹿を使った地元の料理を開発し提供することを計画している。懇親会のテーブルに鹿肉の香味焼が提供され大変美味だった。



山越 信子 氏



山口 祥義 氏



小田切 徳美 氏

開催地町長の岩崎憲郎氏は、4600 人のまちです。高齢化率54%、平均年齢 61 歳。過疎化高齢化の原因の一つは生かし切れなかった森にあると思っている。先人たちが岩の上にまで土を持ってきて苦労して植林を進めた山が生かし切れていない。生かし切ることが将来の大豊町にとっての道であり課題でもある。経済林として植えた森も時代の中では環境林としても必要である。都会で木材を使うことは炭酸ガスの封じ込めも含めて都会に森があると同じと考えている。森林の可能性に期待を寄せる。

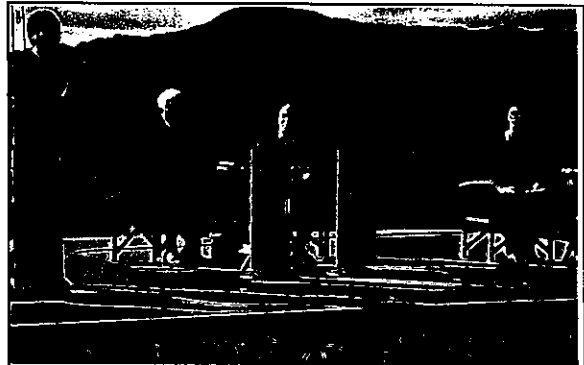
2 日目。大豊製材所は、地域の木材(杉檜)を建築用材に加工している。特に新型乾燥施設の導入により変色、表面われ、内部の割れのほとんどない、柱、土台、平角製品を目玉に生産を目指す。

現地視察の八畝^{やうね}の棚田地区をマイクロバスで移動したが、どこを走っても山また山で写真のように、右手稜線の山の向こうには谷底に国道 32 号線と吉野川があり、それを挟んだ向こうの山にも集落が点在している。

穴内^{あなない}地区あけぼの会の視察では、標高も高く今では美しい棚田と評価も高いが、過疎・高齢化により農地が荒廃してきた。10 年前に地域住民数名で「穴内あけぼの会」を結成し農地の荒廃を食い止めようと棚田で減農薬栽培した米の販路拡大、都市部(消費者)との交流に取り組み地域活性化に努めていた。

会場(あけぼの荘)隣接の棚田では5月4日のオサバイ様祭りの時に田植えをした、黄金色の棚田米が2週間先10月13日に行われる刈り取りを待っていた。

あけぼの会の会長は、この光景を見て頂いたら農業の至難さがわかると思う。TPPも騒がれているが、ここの米は今の3倍の価格でもあわない。米の価値が創造できると思う。我々は山地でこの生活を維持し、農地を守ることに意義がある。全国の皆様にご指導をお願いすると話していた。 以上



パネルディスカッション風景左から飯國好明教授、中島浩一郎氏、小笠原徳孝氏、西村直子氏、



大豊町岩崎憲郎町長



向こうの山まで集落が点在している。この辺りは標高700m付近と思われる。



あけぼの会の会員から歓迎され、地元のおやつ(エゴマ入り流し焼)とゆずのジュースを頂いた。

神山村グリーンバレー

昭和 35 年に 21000 人いた人口は平成 13 年には 6155 人に激減した。2007 年 10 月に移住交流センターが発足。県内 8 か所の市町村で運営がなされていたが、他の 7 市町村は自治体に設置された。神山村ではグリーンバレーの実績があったため、民間で運営を任された。同時期に総務省の事業でインターネットの「イン神山」のサイトを立ち上げていた。その結果 2011 年に神山村始まって以来転出人口より転入人口が上回った。

転入者の平均年齢は 30 歳前後と非常に若い、近隣町村は 55 歳とか 60 歳以上の人が入ってきている。

2010 年 10 月以降 IT ベンチャー 10 社が入って来てサテライトオフィスなどを作り、小さい会社だが本社移転して入って来た。毎月 2~3 社が問い合わせてくる。

一つに、昭和 50 年代に企業立地補助金を利用して町の土地開発公社が作った縫製工場の跡地に、「コンプレックス」を作った。現在緊急雇用で 2 名採用している。

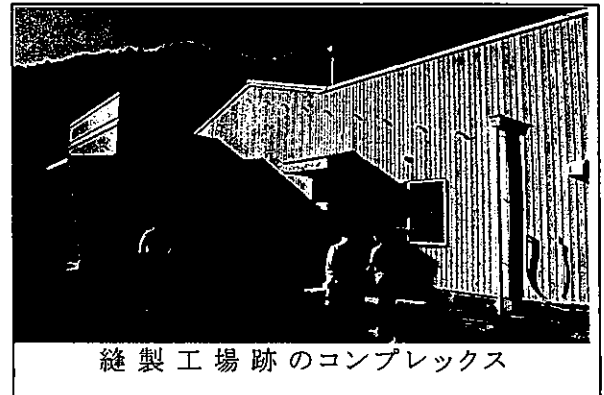
コンプレックスの立ち上げは、将来サテライトオフィスが増えて来れば、人口動態もよくなり子供の数も増える可能性があると考えたからである。2013 年 1 月末に徳島県、神山村、グリーンバレーで 300 万円づつ出して、サテライトオフィスの集積の施設を作った。昨年入って来た番組情報政策やアプリ開発を行っているプラットイーズは 20 名の従業員のうち地元の 8 名を雇用してくれた。他の 12 名は、徳島市内、周辺町村から働きに来ている。

新しい分野の開拓にも向かっている。テレビの 4K は全国でもまだ実証施設がないのでコンテンツも先行させて始めている。昨日も総務省の課長、県知事をはじめ放送関係者が 100 人規模で集まっていた。国も 4K に関する予算を配分すること。

今年 11 月からはドローイングアンドマニユアルという映像制作・WEB デザインの会社が入ってくる。この会社はテレビドラマ「八重の桜」の桜のシーンからピンクの和傘を広げるまでのオープニングタイトルバックを監修した菱川氏の会社である。代表者の菱川氏にひかれ次々と人が入ってくるような気がしている。



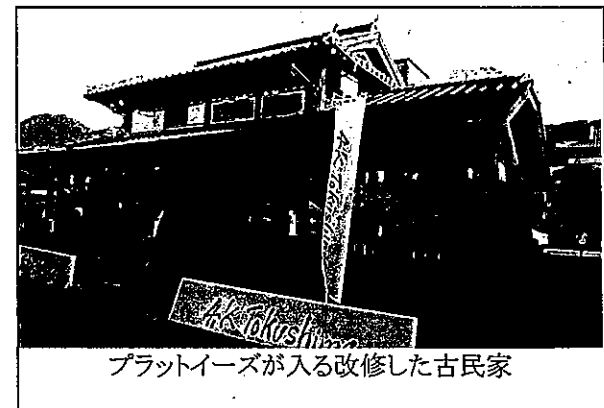
NPO 理事長大南氏の説明を聞く



縫製工場跡のコンプレックス



4K の取り組みを紹介する会場(昔の演劇場)



プラットイーズが入る改修した古民家

グリーンバレーの始まり

グリーンバレーは、1927年(昭和2年3月)にアメリカから、移民排斥運動に心を痛めたギューリック博士が日本に300体送った一つが神山小学校にあった。この青い目の人形をアメリカに返還するPTAの活動にさかのぼる。1990年5月に送り主を探し、PTAを中心に「アリス里帰り実行委員会」を結成し大人20名(費用は個人)、子供10名(費用は役場)を含め1991年8月に里帰りを実現させた。

グリーンバレーのメンバーはその時の5名であり、同じ体験を共有しており、世界に目を向けた地域づくりの国際交流を始めることを目的の一つにした。1992年3月にアリスの会を発展させた形で民間から神山町国際交流協会を設立した。設立目的は、田舎の子供は都会に比べて国際交流にハンディを持っており、それを埋めていくことを目指したが、うまくいかなかった。

1997年4月徳島県から10年間の総合計画63項目が発表されその中に「徳島文化村プロジェクト」があり、将来は公共団体が設立しても民間が運営を行うようになるはずと考えた。

現在行っているイベントやプロジェクトを行っていれば何か得るものが見つかるという発想から、将来こうなるだろうから今何をすべきかを考える。将来予測型の発想へ、現在指向型から未来志向型の転換をした。自ら県に提案をすることに決めた。(アダプトの話)

神山町に行政5人参加し国際文化村委員会が発足し、箱モノを作るのではなく色々なソフトの育成、人財の育成をすることに決めた。必要ならば身の丈に合ったコンパクトな施設を作ると考え、計画は環境と芸術の2本柱を立てた。

1998年に環境はアメリカ生まれのアダプトプログラムを導入し、全国初の道路清掃を取り入れた。県に提案したが受け入れてもらえなかったが、強行した。のちに全国に広まって行った。芸術は国際芸術家村をつくることに決めた。

2004年グリーンバレー設立。

1999年からアート事業として、滞在費を出して日本人2名外国人1名を招待し、制作の支援を住民が担う。「神山アーティスト・イン・レジデンス」の始まり。作品を見に来る観光客を目当てにするには、著名な芸術家の制作費用の財源がなく、作品を評価する人材がない。アートは高められないがアーティストは高められるという発想が生まれた。

欧米からもアートの制作に日本に行くなら神山へと言われるようにしたい。四国にはお遍路文化がありお接待を感じさせながらアーティストに作品を作ってもらおう。神山町の「和の価値」を高めることにしている。

近年、芸術家の滞在期間中をビジネスに変えようと、英語を使った広報の仕組みを考え2008年WEBサイト「イン神山」を立ち上げ、アートを発信した。期待に反し、街術関連の記事より「神山で暮らす」という古民家情報が5~10倍も読まれていた。

神山町移住の歩み

1980年代初めに2組の芸術家(石川県の陶芸家、画家夫婦)が来ていただけだった。アートのプログラム開催以降2年目くらいから日本人の作家がここに住みたいと言い出した。毎年一人づつ



南アフリカ人が作った山の上にあるアート

位移住して来た。移住の世話は家主との交渉、引っ越しの手伝いなどを NPO が受け持ってきたので、移住のノウハウが分ってきた。

2007 年神山町移住交流支援センターがオープンし NPO グリーンバレーに委託され受ける事になった。県下 8 つの移住交流支援センターうち 7 つは自治体が運営しており、民間はここだけである。公営に比べ民間運営だと移住者の情報が把握でき、個人の家族構成や能力等がわかり以降の活動にプラスになった。

2010 年以降 2012 年度までに 37 世帯(子供のいる家族 10 組)71 名(子供 17 名)が移住してきている。最高齢者は 45 歳で平均年齢は 30 歳前後である。

交流支援センターの運営目的・方針は、過疎化・少子高齢化・産業の衰退等の神山町野地域課題の解決のために行うとあり、移住者はより貢献度の高い人を優先的に受け入れている。いわゆる、子供を持つ若夫婦、起業家、若者を優先して紹介している。

子供を持つ夫婦は将来のまちを考えると、学校の児童数は重要な要素になっており、限界点を過ぎれば、「子供にもう少し社会性を身に付けさせたい」とか言って、親が浮足立って少し大きな学校に移っていく局面が出てくるから、これらの若い世帯は最重要者となる。

起業家は、田舎には仕事がないということから、移住者に仕事の紹介をしなくても済む。神山町とすれば重要者になる。(ワーク・イン・レジデンス)

将来、町に必要と思われる起業家、人材(働き手)を空家を武器にピンポイントに逆指名し募集している。1960 年代には多くあった商店がわずか 6 件にまで減少している。商店街を再生する手法としてワーク・イン・レジデンスを思いついた。パン屋、そば&カフェ、WEB デザインなどが入ってきている。将来ワーク・イン・レジデンスを適用すれば、移住と企業と商店街再生まで出来るように考え始めている。

空家の整備

移住してくる若者は、水洗化等水回りの改修費用は持っていない。モデル事業としてグリーンバレーが 200 万円拠出、国の地域活性化センターから 200 万円の助成金を活用し 400 万円で空家の水回りの改修を手掛け、家賃に多少の改修費用を上乗せし、若い移住者に貸し出す「空家町家事業」をモデル事業に行った。改修にあたっては、東京芸術大学建築学科の学生、大学院生、助手、首都圏の学生が手弁当で一夏に、延 250 名が来てくれ、職人と一緒に仕事をした。

改修後入居したのはイギリス人で「ブルーベアオフィス神山」を開いた。本人は年間 2~3 週間ほど滞在するだけ、空いている普段は、海外や都市部に展開しているクリエイターオフィスの人たちに貸出し、1~2 か月ほどで交代してくるようになり、クリエイターの循環オフィスになっている。

空家の改修工事で結果オーライ。

アート・イン・レジデンスで芸術家の循環する場はできてきたが、アートはなかなかビジネスに繋がらなかった。ワーク・イン・レジデンスを推進することで、芸術家よりビジネスに近い存在のクリエイター(映像デザイン屋 WEB デザイン、カメラマンなど)の移住で循環が出来てきている。

WEB サイト開設の年 2008 年 6 月、おりしも、リーマンショックで仕事が無くなり帰郷を考えていた徳島県出身東京芸大建築学科卒、ニューヨーク在住の建築家(坂東氏)夫婦が、WEB サイト「イン神山」を見て来町した。1 年半後に日本に帰り神山町で空家の改修をすることとなり、翌年にはもう

一人ニューヨークから帰国した建築家(須磨氏)も参加し、学生を引き連れて改修工事の指揮をとる事になった。

須磨氏は改修工事中にネットで連絡を取り、須磨氏と慶応大学時代の同期生寺田氏を神山に連れてくることになった。

寺田氏は三井物産退職から名刺管理のベンチャー企業 sansan の社長をしている。三井物産時代シリコンバレーで現地法人の調査業務をしており、現地のテレワークの状況を見てきていたこともあり、「働き方を確信する」を社是に起業したこともあり、「これからは時代の働き方はこれだ」と神山町でのサテライトオフィス第1号(従業員3人)となる。第2号にダンクソフト社の2号オフィスも神山に開設された。

NHK テレビで川原に足を入れノートパソコンでテレビ会議をしている映像がニュースウォッチ9やクローズアップ現代で放送されたことで全国に知れ渡り、多くのITベンチャーの人たちの注目となり移住してくるようになった。

放送局の魅力となったのは、sansan のオフィスだけでは単一事例で番組にならないが、複数になると「現象が来ている」とか、「流れが起きている」とかと言うことになり番組になり、話になるという。

町の誰もが関心を持たなかったアート村でも5年10年続けているうちに地域に魅力が生まれてくる。魅力のある町になると、クリエイティブな人達が集まってくる。人が人を呼び移住してきた人たちの中から新しい農産物の利用なども生まれてくる。あとになってみれば結果オーライということになった。

創造的過疎による地域再生

未来を起点としたアプローチ(バックキャストイング)

過疎を数値化して客観的にとらえることが必要で、未来をくつきりした状態で見ることができる。過疎は止まらないから、どのように過疎を進めていくかのシミュレーションを考える。5年後10年後20年後にどれ位の人口が居れば町を維持できるか、各年齢層で数値化推計することが必要である。必要人口規模(年少人口構成)を維持するには今、施策として何をしておかなければならないかわかってくるはずである。

たとえば、25年後に1クラス20人の学級を維持しようとする、義務教育終了まで0-14歳までの幼年者は300人必要である。両親と子供2人の平均的なモデル世帯から考えると、子育てモデル世帯は150世帯必要であることがわかる。神山町の国際調査の数値から計算すれば、187人であり、1クラス12.5人であるから、7.5人の不足分を補充すれば良い事になる。毎年5世帯20人を移住させれば維持できることが分かった。

施策として必要なものは住居であり、空家が4件しか出てこないと仮定すれば、行政が1戸分を建設する施策をとれば可能なモデルとなる。全くなければ行政がすべて作れば良い。住居の問題はお金をかければ可能である。

全国で懸念されるのが、地域に雇用がない事である。解決方法は前出のワーク・イン・レジデンスである。仕事を持った人に移住して来てもらうことである。サテライトオフィスは本社の人間を循環させるだけで地域雇用を生まないと言っていたが、3年たって約30人位の雇用を生んでいる。人は一つの事を信じ込んでしまう傾向にある。法人税も、住民税も所得税も町には入ってこないと効果がないと信じ込んで、アクションを起こさなかったらどうなったのか。やってみないと前に進まないこ

とが分かった。起業家を受け入れているというのは人口シミュレーションを実現させようとしての事である。成功すれば全国に講演に行く用意がある。

地域づくりは、そこに「何」があるかではなく、そこにどんな人が集まるかということが一番重要である。集まった人の中かから、その「何」というものが生まれてくる。発想を変える必要がある。クリエイティブな人が集まれば良質な価値創造の場を形成することができる。人は適度に循環させておけば、継続的に新しい何かを生み出すことができる。

理事長談話:

- 学生時代に徳島から見た神山町はただの山地域の印象であったから、山でない地域を作りたいかった。
- 行政の過疎対策は過疎の助長のように思える。過疎は人を止めるダムを作っても止められない。逆に入って来たい人を取り込むべきである。
- 日大理工学部からスタンフォード大学に進み、シリコンバレーを見てきた経緯がある。シリコンバレーはスモモしか生産しないような農業地帯では若者が就職できないから、雇用を生む何かを何とかしなければいけないという発想からシリコンバレーは生まれたのが、ヒューレットとパッカードに何か起業しろと言って車のガレージを使わせ、ヒューレットパッカードが誕生し、そこに人が集まってシリコンバレーとなった。

私には何もないところからでも人間が集まれば、発展していくというシリコンバレーの影響もいくらかあると思う。B 級グルメ、ゆるキャラ等簡単に仕上げてしまう傾向にあるが長続きしないと思う。人間間の仕組みは恒久的に続いて行き、次々新しい発想が生まれていくと思う。

- 移住者間の交流は特に意識しては行っていない。
- NPO の運営は、初年度は 79000 円から始まって、次々指定管理(3 か所)を受けるようになり、県の事業も受けている。今年の運営費は 6000 万円位になると思う。厚労省の職業訓練も受けてイベントプランナーなどを養成している。訓練生にはハローワークから支援金が支給され、NPO には訓練奨励金が払われる。60 人ほどが訓練を受け、その内 26 名は町内に残っている。サテライトオフィスに雇われたものもいる。卒業生から 5 組のカップルが出来、職業訓練が婚活になってしまった。..笑
- 職員は緊急雇用事業で 5 人、地域おこし協力隊 1 人も配属してもらい 10 人体制で活動している。理事長は非常勤(実際は日曜日も常勤)の無給である。事業方針などは理事会(10 名)で決定する。(移住者が 3 名いる)
- 企業誘致に行政は関与していない。個人が知人を連れてくるとか、IT ベンチャーの人と気が合って連れてくるという感じ。今年 2 月に安倍総理と住民との対話集会「車座ふるさとトーク」が神山町で開催され、それ以降、役場の雰囲気が変わった。若手職員のフットワークが軽くなったように思える。

- Iターン者に対して行政からの特別な支援策はなく、移住交流支援センターを通じてIターンした者はクリエイター系が多く、光回線の引き込み費用 126000 円は移住交流支援センターが支給している。合併浄化槽補助金は規定の額を町が支給している。
- サテライトオフィスは、企業誘致ではない、人材誘致と考えている。地域の外から見た目が大事だ。地域の農業を見たときにも、在住者は農業に限界を感じているが、Iターンしてきた若者は限界を設けないから、目に映るものが我々とは違う。サテライトオフィスは形がないものだけに町長に説明してもわかってもらえなかった。今は、雇用が生まれ、「隣の子もサテライトオフィスに雇われた」と言っていて、見る目が変わった。人財誘致という時間のかかることを柔らかく見てくれるようになった。
- 移住者に求める地域要望は、挨拶と草取りだという。

以上

参加者は、池田文治、古南源二、原 秀樹の 3 名。

行程表は視察届出書の通り。

費用は高速利用料金合計 10770 円。ガソリン代 6885 円。

個人支払金はホテル代セブンデイズ 5000 円。NPOグリーンバレー資料研修費 4000 円。

懇親会参加費 3000 円。神山町宿泊桜屋旅館 7500 円。

出会った人は、

The collage includes several items:

- Top Left:** Card for Shikano Town (四万十町) with contact information for Mayor Tetsuo Tanabe (田邊 卓 Tetsuo Tanabe).
- Top Right:** Card for Takahashi Ooto Yamahei Co., Ltd. (高知おおとよ製材株式会社) and Saitoh Masahito (嵯峨山 正治).
- Middle Left:** Card for the Shikano Town Association (四万十町協会) with contact info for Kenji Nakamura (中村 健太郎).
- Middle Right:** Card for Shikano Town (四万十町) with contact info for Masahito Yamakawa (山岡 義正).
- Bottom Right:** Card for Mayor Kazuo Kusunose (須崎市長 楠瀬 耕作) and a card for Green Valley (NPOグリーンバレー) with contact info for Shinya Oshikami (大南 信也).
- Bottom Left:** Vertical text listing the itinerary: "高知県神山町訪問日程表" (Itinerary for the Shikano Town visit in Kochi Prefecture).